

社会科学学習指導案

指導者 吉田 竜二郎

1. 日時 平成18年5月12日(金) 3校時
2. 学級 上田中学校2年1組 男子19名 女子16名 合計35名 南校舎2階2年1組教室
3. 主題 第4章 近世の日本と世界 第4節 行きづまる幕府政治と欧米の接近
～ 百姓一揆について調べよう～ 身近な地域の歴史をさぐる

4. 主題について

この単元は、我が国における近世社会の成立とその変化を学習するものであり、この中単元では、社会の変動や欧米諸国の接近に対応した幕府の政治改革と政治の行き詰まりを理解させるとともに、新しい学問・思想の動きについて気づかせようとするものである。貨幣経済の発達に伴い農民の貧富の差が拡大し、財政再建に苦しむ幕府や藩は百姓の負担を強めた。飢饉等もあって生活に窮した民衆は年貢の軽減や不正をした役人の交代等を求め、百姓一揆や打ちこわし等の行動によって抵抗をしたが、これは単なる抵抗にとどまらず後の藩政改革に影響を与えるなど、民衆が力をつけてきていることがわかる。封建社会下において被支配者層が重い税に苦しみなながらも、社会的に成長を見せていることを生徒にも気づいて欲しい。

生徒は、2年生に進級して新しい人間関係をつくりはじめたところで、まだ話し合いを組織するところまでは指導していないが、歴史に興味を持っている生徒、歴史的知識が豊富な生徒もあり、社会的な思考についても豊かな発想を見せ、多面的な思考をすることができる。しかし、社会あるいは歴史を苦手としている生徒もいて、論理的な思考を苦手としている生徒も数名見られるので、指導場面で語句の確認や平易な言葉に言い直すことを通して、苦手意識を持っている生徒にも取り組みやすい雰囲気をつくっていききたい。

一般的な「一揆」のイメージは、支配者に対する抵抗であり、成功する可能性の極めて少ない賭のような行動であるととらえている。したがって一揆の指導者は厳罰に処せられる、いくらかの要求は受け入れられても、その行動が支配者に影響を与えることは少ないと考えている。しかし三閉伊一揆は、その要求や行動、結果ともに他の一揆と比べても抜きん出たものであり、後の藩政改革に影響を与えたという意味でも、幕末の社会の流れを考えさせる上でも民衆の成長を理解させるのに適した教材である。身近なところに、民衆のエネルギーを感じる大きなできごとがあったことを学び、社会の変動を感じ取らせたい。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

社会的な事象への関心・意欲・態度	身近にも、教科書に載っているような事例があったことから、一揆の過程や与えた影響等について調べようとしている。
社会的な思考・判断	三閉伊一揆が、南部藩の政治に対して要求したことやその結果から、民衆が成長していることに気づいている。
資料活用の技能・表現	一揆軍の覚悟や要求を読み取り、他地域の一揆と比較して考察している。
社会的な事象についての知識・理解	三閉伊一揆が、どのような背景で起き、その過程、結果から民衆が単なる被支配者ではなく、成長してきていることに気づいている。

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

本時は、中単元「行きづまる幕府政治と欧米の接近」の学習で、幕府や藩の改革の失敗、百姓一揆や打ちこわしの発生等を学習している状況で、「岩手県でも一揆が起きたのだろうか」と問いかけ、既習事項をよりどころにしながら、身近な事例を通して社会の変動を学習するものである。三閉伊一揆そのものを詳細に調べるといっても、既習事項としての一揆の要求や結果と比べて大きく異なる点を知ったときの驚きと民衆の力強さを感じ取らせたい。農民や庶民は押さえつけられる存在という既成概念を打ち破り、社会の変動が幕末へと向かっていくことを感じ取らせたい。

(2) かかわり合いを生かす手だてについて

本時は、既習事項としての一揆に対する考えを、ある意味でくつがえすことによる、百姓でもこんな要求をしたのだ、首謀者を処分させないことができたのだ等の新しい知識を得ることから、より多面的な見方をする力をつけることをねらっている。したがって、展開段階での資料プリントを読み取る場面が極めて重要である。資料文を読み取り学習シートに書き取る活動が山場であり、資料文とどのように関わるかが第一に重要と考える。なかなか読み取ることのできない生徒に対しては、机間巡視をはじめ、友達の発表を通して、読み取りを共有させることを通して、一揆の特徴を理解させたい。また、発表の段階で既習事項と資料から読み取った内容を正しく使うことで、「ことば」を意識していききたい。

9. 本時の展開

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方(学習の仕方)
D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

段階	過程	時間	学 習 活 動	評価の視点・方法	指 導 上 の 留 意 点	学習形態・教材・教具
導 入	課 題 把 握	8 分	1 既習事項の想起をする。 ・百姓一揆はどんなときに起こったのか、どんな要求をしたか、結果はどうだったか。 2 岩手県ではどうだったか、百姓一揆は起きたか考える。 3 学習課題をつかむ。 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三閉伊一揆はどんな要求をし、どのような結果になったのだろう。</div>		・年貢が重かった、飢饉で食べるものがなかった、等の学習事項を想起させる。 A ・一般的傾向として考えていたことを、身近な岩手県でもおこったかどうか予想させ、やはり岩手県でも百姓一揆が起こったことを指導する。 E	OHP 一揆の表
			3 分	4 予想する ・年貢を減らして欲しい ・借金の棒引き		・既習の要求等が出てくることが予想されるが、その他の要求等の予想も大切に取り上げる。
展 開	課 題 追 究	14 分	5 三閉伊一揆は、どのようなものだったのか、資料を通して調べる。 ・資料を読む(範読) ・一揆の原因、要求、結果等が分かるところに印を付ける。	5 [資料活用の技能・表現] <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一揆を説明した資料から、一揆のあらましを読み取り、発表している。</div> 記述内容 A：藩主の交替、仙台領民に、仙台領、藩政改革 C：要求は？、最後はどうなった？という問いかけから資料を読み取らせる。	・資料をじっくりと読ませ、どのような一揆だったのか、今まで学んできたものとどこが異なるのか考えさせる。 D	プリント 三閉伊一揆の概略学習シート
			15 分	6 読み取ったことを発表し合う。 7 三閉伊一揆の特徴について話し合う。 ・異なるところ ・特徴的なこと(すごいと思うところ)		・三閉伊一揆の特徴から、「藩主の交代を要求したこと」「仙台藩の領民にするように要求したこと」「首謀者を処罰させなかった」等、知っている他の一揆と異なることに気づかせる。 A ・結果をふまえて、一揆の計画性や民衆の成長、そしてペリー来航の時期と重なることから、時代が大きく変わろうとしていることに気づかせる。 D
終 末	ま と め	10 分	8 今日の学習でわかったことをまとめる。 9 次時の予告をする。 ・この時代にどのような学問や文化が発展したかを学習することを知らせる。	[社会的な思考・判断] <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三閉伊一揆の特徴を理解し、一揆が社会に与えた影響に気づいている。</div> 記述内容 A：民衆の意見を聞くようになった、武士の力が弱くなった、封建制度の崩れ C：要求や結果を確認し、初めて知ったことや驚いたことをまとめさせる。	・一揆軍の要求や結果から、民衆の成長を感じさせるとともに、藩政改革等、その後の動きにも影響を与えたことに気づかせる。 D	

指導と評価の計画

2 年 社会		単元(題材)名 行きづまる幕府政治と欧米の接近			総時間 4時間 扱い		
学習指導要領の指導事項 (4) 近世の日本 才 社会の変動や欧米諸国の接近に応じた幕府の政治改革と政治の行き詰まりを理解させるとともに、新しい学問・思想の動きについて気づかせる。							
単元の目標		主な学習活動	評価規準	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
貨幣経済の拡大や百姓一揆の発生、欧米諸国の接近に応じて行われた政治改革が効果を上げなかったことを理解するとともに、新しい学問や思想の動きに気づくことができる。		綱吉をはじめ、財政の悪化に伴って行われた政治改革について調べる。 年貢の重さに耐えかねた農民が百姓一揆を起こしたことを調べる。 外国船が接近し、幕府が北方の警備をしたことを調べる。	B = 「おおむね満足できると判断される状況」	社会の変動に対応するため、どのような改革が行われたか調べようとしている。	政治の行き詰まりの中で、学問や思想に見られる新しい動きに気づいている。	改革の資料や傘連判状から、それぞれの内容と目的を読み取っている。	幕府による改革や百姓一揆に伴って、政治が行き詰まったことを理解している。
			A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	財政を再建するために必要なことを意識して改革を調べようとしている。	財政を再建するため、改革が行われたが、成果が上がらず、政治が行き詰まっていたことに気づいている。	百姓一揆と飢饉との関連を読み取り、改革がなかなか成果に結びつかなかったことに気づいている。	財政再建のために行われた改革や百姓一揆について理解し、外国の接近や産業の発達にともない社会が変動してきたことに気づいている。
			C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への手だての例	当時の社会の状況を理解させ、どのような改革が必要か考えさせる。	幕府の政治改革について調べ、成果が上がらなかったことから、その後どうなるか考えさせる。	傘連判状が、なぜ丸く書かれてあるか考えさせ、当時の百姓が置かれていた状況を考えさせる。	財政を再建するため、どのような改革が行われたか調べさせ、その結果どうなったか考えさせる。
段階	時	主な達成目標	主な学習活動	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
1	1	綱吉の政治と百姓一揆の発生から、改革が必要な状況になっていること気づくことができる。	資料から、綱吉の政治や百姓一揆の発生について読み取り、その結果を調べる。	社会情勢の変化に伴って、政治を改革しようとする動きについて興味を持って調べようとしている。	傘連判状に見る百姓一揆の参加者の思いを通して、政治に行き詰まりに気づくことができる。	飢饉と百姓一揆との関係や傘連判状等の資料から、幕府や藩の政治に対して民衆が立ち上がったことに気づいている。	綱吉や白石が政治を改革して財政を立て直そうとしたが、負担を強める幕府や藩に対し、農民は百姓一揆を起こすなどして体制を揺るがしたことに気づいている。
	1	幕府がどのような改革を行ったか理解し、政治が行き詰まりに気づくことができる。	幕府がどのような改革に取り組んだのかについて調べ、成果について考える。	幕府がどのように政治を改革しようとしたか、興味を持って調べている。	幕府の諸改革がどのような効果を上げたか、またその後どのようなことが起こったかに気づいている。	政治改革を皮肉った落書などから、民衆が改革をどのように見つめているか読み取っている。	幕府が政治を立て直そうと改革を進めたが、成果に結びつきにくく、飢饉もあって政治が行き詰まっていくことに気づいている。
	1 (本時 3 / 4)	全国の流れと比較しながら、身近なところでも一揆が起きて民衆の動きが活発に行われたことに気づくことができる。	三閉伊一揆について調べ、既習事項と比較しながら、民衆の成長について考える。	身近にも、教科書に載っているような事例があったことから、一揆の過程や与えた影響等について調べようとしている。	三閉伊一揆が、南部藩の政治に対して要求したことやその結果から、民衆が成長していることに気づいている。	一揆軍の覚悟や要求を読み取り、他地域の一揆と比較して考察している。	三閉伊一揆が、どのような背景で起き、その過程、結果から民衆が単なる被支配者ではなく、成長してきていることに気づいている。
	1	多くの人が学問に取り組む中で、新しい考えや文化が生まれたことに気づくことができる。	社会の変化の中で、新しい学問や文化の発生について調べる。	社会情勢を反映した文化の発展や、学問が発達してきた様子を興味を持って調べている。	社会の発展と政治の行き詰まりを背景に発展した学問や文化の特色に気づいている。	文化作品や学問の資料から、それぞれの特色をとらえている。	化政文化の特色やどのような社会情勢から生まれたのかについてとらえている。

三閉伊一揆について調べよう

江戸時代の後期、南部藩（盛岡藩ともいう）は、うち続く凶作、幕府の命令による数々の土木工事による出費、蝦夷地警備などによる出費により、財政難に苦しんでいた。

1847年、南部藩は臨時の税を領民にかけたが、それは特に三閉伊通とよばれた太平洋沿岸地方に重いものであった。

この地方は冷害に見舞われやすく、稲作には向かなかったが、長崎からの重要な輸出品であった干しアワビ・フカヒレ・こんぶなどの海産物が取れ、魚肥（魚を原料にした肥料）の生産地として漁業が成長していた。藩は、これらの新しい産業を藩財政のために税をかける対象としてみたのである。

これに対抗して、農漁民約12000人（人口の20%）が一揆に立ち上がった。その中心にいたのが弥五兵衛である。弥五兵衛は、重い税をかける藩政に疑問を持ち、それを改革するには人々が結束して立ち上がらなければならない、と説いて回っていたのである。

一揆の人々は食料を背負い、数百人ずつ隊を作り、現在の遠野市に結集した。その秩序ある行動は「古今まれなる強訴」と言われた。

遠野藩...南部藩の創始者の弟の子孫のため、代々特別な家柄として藩内に重きをなし、重大な問題が起きると執政職の最高となる習慣であった。

弥五兵衛は、以前の一揆で盛岡藩が約束を破ったことから、盛岡から来た家老との交渉を拒否し、遠野藩家老に対して、新たに要求された税の全免をはじめとして26ヶ条の要求を提出。これに対して遠野藩は、新たな税の全免をはじめとする12ヶ条を許可し、しかも遠野藩からの帰りの食料を支給して、一揆を収めさせた。

しかし一揆が収まると、藩は約束を破り、さらに増税を強行した。再び改革を唱えた弥五兵衛は、捕らえられ牢内で死んでしまう。それでも、人々は弥五兵衛の考えを受け継ぎ、一揆に立ち上がった。その指揮をしたのが田野畑村の太助たちである。

1853年、太助たちは「小」の旗を立て仙台を目指した。その途中、周辺の村々からも人々が加わり、釜石に入ったときには、16000人（人口の25%）にも達していた。そのうちの約8500人が仙台領内へと入った。

人々が仙台藩に訴えたのは、「藩主を替えて欲しい」「三閉伊通の百姓を仙台領民として受け入れて欲しい」「三閉伊通を幕府の直轄地または仙台領にして欲しい」など52ヶ条であった。南部藩は百姓の引き渡しを仙台藩に要求するが、以前に似たようなことがあり、引き渡したならば指導者が処刑されたことから、引き渡しをしなかった。しかし、この年ペリーが黒船に乗ってやってきたため、仙台藩にも江戸警備の命令があり、一揆どころではなくなったため、代表45人を残して帰国を勧めた。しかしこの時、全ての百姓を仙台藩の預かり百姓として保護した。

指導者の太助は、長引く交渉で代表45人が望郷の念にかられるとこう言った。「我々は民衆のために死ぬ覚悟だ。仙台なり江戸なりで処罰を受けるのならそれも本望。帰国し処罰されても万人のためにはならないし、それこそ無駄死にだ。皆で覚悟

を決めようではないか」

南部藩・仙台藩とのその後半年にわたるねばり強い交渉の結果、藩主交替や領地替えは認められなかったものの、49ヶ条の具体的要求の全てを受け入れさせた。しかも一揆の指導者を処罰しないという約束をした『安堵状』とよばれる証文も書かせた。（この安堵状は、太助の家に現在も代々保管されている）

この一揆を知った幕府に責任を問われた南部藩では、200名あまりの役人が処罰され、藩政改革が進んだ。

一揆の参加者たちは、代表者45名の身にもしものことがあった場合（殺される）、残された家族、子孫の保育料を各村が支給する（10両×10年）と約束していた。

三閉伊一揆が他の一揆とちがうと思うこと、すごいと思うこと

三閉伊一揆について学習してわかったことをまとめよう

2年 組 番 氏名